



先月は、当寺最大の行事である観音祭とふてんまつりに大勢の来場者がありました。誠にありがとうございました。

「お寺を身近に」をコンセプトに様々な企画を行っています。少しでもその思いを共有頂ければ幸いです。

神宮寺のこれから 良啓

質問です。

「お寺と聞いて、何を連想しますか？」

もしかして、葬式、スーコーなどではないでしょうか。

もちろん、葬儀や法事などの先祖供養は大事です。

でも、それと同じ位大事なことは、生きている私達です。

真言宗のゴールは、

「この世で、この身のままで、仏となる（即身成仏）」事と教えています。あの世に行つてからではありません。他の誰かでもありません。貴方が貴方のままで仏様なのです。

喜び、悲しみ、楽しみ、苦しみ、出会い、別れ。

生きると言う事はたくさんのお出来事を経験する事だと思えます。その一つ一つを丁寧に過ごす事が仏教の説く「悟り（＝幸せ）」なのです。

そして、神宮寺がそのきつかけや気付きの場所となります。尚泰久王がこの地を仏法守護の一大聖地と定めて五五六年が経ちました。これまでもこれからも、仏様を信じる

皆様に寄り添い、見守る寺として、精進していききますので、どうぞ末永く宜しく願います。



弘法大師のことば 裕俊

いっしんひと せいぼつ
一身独り生歿す。

でんえいこ わじょう
電影是れ無常なり。

性靈集卷一・遊山慕仙詩

「人は生れ来る時も、死に行くときもただ一人。人の生涯は稲光のように瞬く間であり、無常極まりない。」

私たちを取り巻く環境は、常に変化します。友人が出来たと思つたら離れてしまつたり、子供を育てていくと孫が産まれたり、長く過ごした大切な人を失つてしまつたりと、出会いと別れを繰り返し、歳を重ねていきます。

「一期一会」という有名な言葉がありますが、今回の言葉は空海流の一期一会と言えるのではないのでしょうか。人生は短いものである、そう理解すると、その短い人生の中で出会えた人たちというものは、すごく尊いものと感じます。そして、人と接する時は「もう二度と会えないかもしれない」という心構えをしておく、お互いが温かい気持ちになれるような対話、対応が出来るようになります。

世の中にずっと変わらないものといふのはありません。今ここに自分がある事に感謝し、後悔のないよう、日々を過ごしていきましよう。

